

効く抗がん剤 短期で予測

国立がんセンター 遺伝子100種 同時分析

国立がん研究センターは、がんの遺伝子変異を約100種類まとめて調べ、最適な治療法を見つける臨床研究を来年1月から始める。2018年度の一般医療への応用を目指している。

がんは、遺伝子が傷つき変異することで生じる。同じ種類のがんでも変異には複数の種類があり、抗がん剤の効き目もそれぞれ異なる。

調べる。同センターの中央病院(東京)や東病院(千葉)で複数の抗がん剤の治療を受けたが効果が見られなくなった患者を対象にし、年200人の分析を行う。

約100種類の遺伝子変異は、それぞれの変異に対応した有効な治療薬が既にあるものや、製薬企業が薬の試験を行っているものが多い。臨床研究で、患者にこうした遺伝子変異が見つ

かかった場合、最適な治療を始めた。治験を紹介したりする。
*総合診療の出番です(休みました。)



医療のページ

出産目的の子宮移植 若い女性 4割強容認

病気などで子宮がない女性に、妊娠・出産を目的に第三者の子宮を移植する「子宮移植」について、

慶応大の研究グループは、若い女性の4割超が「実施は賛成」と考えているとする調査の結果をまとめた。子宮移植は、スウェーデンなどで11例実施されているが、国内ではまだ研究段階で行われていない。

調査は昨年12月、25〜39歳の女性約3700人を対象にインターネットで実施。子宮移植の賛否を尋ねたところ、「大いに賛成」「賛成」が計43%で、「絶対反対」「反対」の計9%を大きく上回った。

半数近くは「どちらともいえない」と回答したが、倫理的に許容されるかどうかを尋ねた別の設問では「課題はあるが、議論を続ければ許容される可能性がある」が76%に上った。

子宮移植を誰に実施すべきかでは「生まれつき子宮がない人」が53%で最も多かった。

◆シンポジウム・乳がんのホルモン療法について 22日午後1時半、東京・四谷の主婦会館プラザ

エフ。患者会のNPO法人ブーゲンピアの主催。長期にわたることもあるホルモン療法について、日本乳がん学会理事長の中村清吾さんから医師と、患者代表が話し合う。無料。問い合わせは患者会理事長の内田絵子さん(090・6495・5856)まで。

◆たいらかまつり 28、29日各午前10時から、東京都港区三田5の4の4の特定非営利活動法人たいらか。発達障がい者の社会適応や自立支援に取り組む法人の交流祭。入場無料。作品展の他、書道やマスクアートの体験教室(いずれも無料)、リース手作り(材料費500円)なども。詳細は同法人ホームページ(<http://www.tairaka.com/>)。

「病院の実力」をスマートフォンでアイフォン、アイパッドに対応したアプリ発売中。詳しくは、<http://yomidr.jp/page.jsp?id=56155>